



平成27年11月9日

各位

会社名 藤田観光株式会社
 代表者名 代表取締役社長 瀬川 章
 (コード番号:9722、東証第一部)
 問合せ先 取締役 企画グループ長 伊勢宜弘
 (TEL. 03-5981-7723)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成27年2月13日に公表しました平成27年12月期通期業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせします。

記

1. 業績予想の修正について

平成27年12月期 通期連結業績 (平成27年1月1日～平成27年12月31日)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結当期純利益	1株当たり 連結当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 64,200	百万円 △1,300	百万円 △1,500	百万円 △500	円 銭 △4.17
今回修正予想 (B)	63,800	△300	△500	△500	△4.17
増減額 (B-A)	△400	1,000	1,000	—	
増減率 (%)	△0.6	—	—	—	
(参考) 前期連結実績 (平成26年12月期)	64,250	1,365	1,390	531	4.43

2. 第2四半期終了時点における通期業績予想

当社は、平成27年8月7日付「第2四半期連結累計期間業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」でも記載しましたが、平成27年2月13日に公表した第2四半期連結累計期間 (平成27年1月1日～6月30日) の業績予想数値に対して、同四半期の決算実績値が下表 (参考) のとおり増収増益となりました。

但し、通期の業績予想については変更いたしませんでした。理由は、宿泊部門の売上高は訪日外国人の増加を背景に客室の利用単価が想定以上に上昇するなど、WHG事業を中心に堅調に推移しておりましたが、平成27年6月30日に箱根大涌谷の噴火警戒レベルが2から3へと引き上げられたことにより、第3四半期に最繁忙期を迎えるリゾート事業の「箱根ホテル小涌園」、「箱根小涌園ユネッサン」など主要施設における大幅な減収減益が避けられない見通しとなったため、前回発表予想を据え置いたものであります。

(参考) 平成27年12月期第2四半期連結累計期間業績予想と実績値との差異 (平成27年8月7日公表)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結四半期 純利益	1株当たり 連結四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 30,000	百万円 △1,700	百万円 △1,800	百万円 △1,500	円 銭 △12.52
実績値 (B)	30,249	△845	△838	△824	△6.88
増減額 (B-A)	249	854	961	675	

3. 修正の理由

当第3四半期のリゾート事業の業績推移をみますと、「箱根小涌園ユネッサン」では最盛期である夏季にファミリー層を中心とした利用客が著しく減少しましたが、「箱根ホテル小涌園」では外国人旅行者の集客を図るなど影響を最小限に抑える施策が功を奏したこと、また平成27年9月11日に箱根大涌谷の噴火警戒レベルが3から2へと引き下げられたこともあり、今後のリゾート事業における減収減益は第2四半期終了時点で見込んでいたほど大きな落ち込みとはならない見通しとなりました。

一方、WHG事業においては、訪日外国人の大幅な増加を背景に引き続き宿泊部門が堅調に推移しました。特に本年4月に開業し7月からフル稼動をはじめた新宿歌舞伎町のホテルグレイスリー新宿 (970室) の業績は、極めて順調に推移しております。

以上を踏まえた通期の業績予想といたしましては、連結の売上高は前回発表予想からは4億円減少となる見込みですが、営業利益、経常利益については、宿泊部門の客室利用単価上昇やリゾート事業の固定費削減などにより利益率が改善し、前回発表予想からはいずれも10億円の増益を見込んでおります。

なお、連結当期純利益につきましては、第4四半期に保有する投資有価証券の一部売却を検討しておりますが、現時点では銘柄や株数も含め検討段階であるため、当初予想を据え置くことといたします。今後の状況の変化や業績推移に応じて修正の必要性が生じた場合は、速やかに公表いたします。

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予測数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上